

福岡日米協会設立50周年記念
連続講演会
2007年10月～2008年3月

50 YEARS
1958-2008



福岡日米協会
The Japan-America Society of Fukuoka

-文化、価値観、外交-
アジアにおける日本のソフトパワー



主催：福岡日米協会

連続講演:

文化、価値、外交
アジアにおける日本のソフトパワー

「共生社会」、「持続的発展」、「もったいない」…と、21 世紀のベンチマークとなる視点が積極的に提案されています。では、今日、日本はどのような文化的魅力を持ち、世界と分かち合えるものとして、どのような価値観を持ち合わせているのでしょうか。このプログラムでは、2007 年 10 月 4 日から 2008 年 3 月 6 日まで 9 回にわたり、多彩な講師を招き、様々な角度から日本のソフトパワーの実情、問題点や成功事例を踏まえ、その可能性について考えます。

1 部:文化

2007 年 10 月 4 日 (木) 18:00~20:00

福岡ビル 9 階 5 ホール

1. マンガがフランスコミック界へ及ぼす影響 (英語・日本語)

講師:ヴァンサン・ルフランソワ (Vincent Lefrançois) 氏



フランスでも古くからコミックは盛んでしたが、現在専門誌 3 誌のうち 1 誌は日本のマンガ雑誌です。1970 年代から日本のアニメに親しんできたフランスの読者にとって、日本マンガの造形や物語世界が、フランスコミックの底流となっていると言って過言ではありません。この講演では、フランスコミック界を切り口として、マンガという日本のソフトパワーの影響について考えます。

■講師紹介 1966 年フランス生まれ、1988 年にパンテオン・ソルボンヌ大学 (パリ) 造形美術科卒業。その後ボルドー第 3 大学でコミックストーリー制作を学び、修士号を取得。1993 年、フランス外務省の自由研究生として来福、1993 年よりフリーイラストレーターとして西日本新聞、フクオカ・ナウ、Tokyo Walker などへの寄稿、JR九州のポスター制作、作品展示会開催を行う。現在、日本マンガのフランス版を制作するカステルマン社勤務。福岡大学講師。

2007 年 10 月 11 日 (木) 18:00~20:00

福岡ビル 9 階 1 ホール

2. アジアへのニュース発信 (英語・日本語)

講師:那須省一 (なす しょういち) 氏



読売新聞とデイリー・ヨミウリは、アジア独自の視点による地域ニュース提供をめざしてアジア 14 개국 18 紙が運営するアジア・ニュース・ネットワーク(ANN)に加盟しています。この講演では、読売新聞グループが ANN に対しどのような協力をを行っているのか、またアジアにおいてニュース報道が直面する諸問題について紹介し、アジアの諸事情と日本のソフトパワーとの関連について考察します。

■講師紹介 1979 年宮崎大学教育学部卒業。同年読売新聞東京本社に入社し、以降国際部や英字新聞部に勤務。1987-90 年ナイロビ支局、1993-96 年ロンドン支局駐在を経、2004-06 年デイリー・ヨミウリ編集員。2006 年 10 月より読売新聞西部本社編集委員。

2007 年 10 月 26 日 (金) 18:00~20:00

福岡ビル 9 階 1 ホール

3. 消費生活における日米の関係 (日本語のみ)

講師:久留百合子 (ひさどめ ゆりこ) 氏



戦後日本は、新憲法策定をはじめ、政治、経済、そして生活の場においても米国から多くの影響を受け、独自の企業経営や勤働性によりめざましい経済発展を遂げました。バブル崩壊後は不況が続き、国際的影響力も縮小しましたが、ここにきてアニメや日本食ブームにみられるように、日本からの文化輸出が脚光を浴びてきています。切っても切れない日米関係を、「消費」という切り口から概観してみます。

■講師紹介 津田塾大学学芸学部数学科卒業。結婚、子育てと 7 年間の専業主婦の後、1983 年福岡県消費生活センター相談員を経、1984 年西日本銀行にホームコンサルタントとして入行し、消費者動向調査、家計管理、環境・マーケティングなどの講演を担当。2001 年、消費生活アドバイザーの女性 3 名で起業し、(株)ビスネット代表として消費者の視点から各種調査、社員研修などを行う。福岡県教育委員会の他、福岡県・市の各種委員、NPO 法人ベターマーク代表。

2 部:価値観

2007 年 11 月 1 日 (木) 18:00~20:00

福岡ビル 9 階 5 ホール

4. 持続可能なグローバル・コミュニティと日本 (日本語のみ)

講師:中野勝之 (なかの かつゆき) 氏



経済発展と環境保全は裏腹な関係にあり、更に地域や住民間の利害対立からグローバルな規模の対立まで、問題を一層複雑にしています。日本は国連で「持続可能な開発」について主導的な役割を果たしてきましたが、個人レベルにおいても、地球市民としてこの精神を実践に移すことが求められます。文化的背景を超えて、「共生の未来」実現に向け、私たちが実際にどう行動すべきかを考察します。

■講師紹介 北九州市生まれ。1968 年、京都大学工学部燃料化学科卒業。1983 年九州大学にて博士号を取得。1990 年より福岡大学工学部教授。発明特許の取得や環境分野で国際学術誌への発表など多数。2004 年より資源循環・環境制御システム研究所長を兼務し、循環型社会の構築に資する科学技術開発やエコビジネスの可能性研究を行う。

2007年11月29日(木) 18:00~20:00

福岡ビル9階1ホール

5. 平和を作り出す社会:ソフトに踏み出す (英語・日本語)

講師:リディア・ハンキンス (Lydia Barrow-Hankins) 氏



ソフトパワーへの国際的関心が高まる一方、国内では憲法前文と9条見直しの議論が高まり、戦後の長い平和も「平和ボケ」に堕したと、戦後教育に疑問が投げかけられています。この講演では、歴史がいかに教訓に富む人類共有の財産か、軍事力増強が地域の平和にどう働くのかということについて、この地球の一時的な寄留者、旅人であり、平和憲法を持つ国の市民である私達自身の問題として考えてみます。

■講師紹介 米国ジョージア州生まれ。日本在住は30年に及び、南ジョージア州立大学で広報を修め、キリスト教神学修士を取得。千葉や神奈川の教会牧師を務め、9年前より西南学院の学内牧師として勤務し、現在、西南学院バプテスト教会の協力牧師を務める。大学では、毎年フィリピンでのボランティア活動に学生を引率している。

3部:外交

2008年1月17日(木) 18:00~20:00

福岡ビル9階1ホール

6. ポスト9/11の戦略的日米パートナーシップ:日本のソフトパワーとの関連 (英語・日本語)

講師:ステファニー・A・ウエストン (Stephanie A. Weston) 氏



米国は、日本にとっては依然として、アジア太平洋地域にいて最も重要な二カ国間および国際的パートナーです。このパートナーシップは、民主主義、繁栄、人権擁護の追求など、共通の価値観と戦略的目標により特徴づけられています。これを踏まえ、9.11以降の「戦略的日米パートナーシップ」とされる両国関係を検証し、そのことが日本のソフトパワーに与える影響について考察します。

■講師紹介 今回の記念連続講演を統括するプログラム・コーディネーター。1997年から11年間、外交官としてコロンビア、ブラジルを経、福岡アメリカ領事館領事を歴任。現在福岡大学にて日米国際関係(政治学)の教授。国際政治学会、日本国際政治学会会員であり、福岡日米協会、ラテンアメリカ文化センター、北九州アジア女性フォーラムでそれぞれ理事を務めるなど、幅広い分野にて活躍中。

2008年1月31日(木) 18:00~20:00

福岡ビル9階5ホール

7. 21世紀の日韓関係:懸案と展望 (英語・日本語)

講師:李弘杓 (イ・ホンピョー、Hong Pyo Lee) 氏



日本は韓国にとって最も近い国でありながら、心理的には最も遠い国とみなされています。1965年の国交正常化以来、両国は相互依存を深めて来ましたが、時として歴史認識の問題が緊張を生み、近年は双方の民族主義の高まりも懸念されます。この講演では、両国関係の安定が東アジア地域全体の安全と繁栄のために不可欠であり、また歴史認識問題の解消なくして両国の安定的関係は望めないことを論じます。

■講師紹介 韓国ソウルで生まれ、延世大学を卒業。1989年米国インディアナ大学にて博士号を取得後、ソウルの国際民間経済協議会、世宗研究所で研究員として勤務。2000年8月-04年3月まで名古屋大学大学院法学研究科の助教授を務め、現在は九州大学大学院法学研究院で中国政治と東アジア国際関係を教えている。

2008年2月28日(木) 18:00~20:00

福岡ビル9階1ホール

8. 日中関係とソフトパワーとの関連 (日本語のみ)

講師:青木麗子 (あおき れいこ) 氏



これからの日本は、ソフトパワーを高め、政治力や軍事力、技術力ではなく、真に魅力のある国として国際社会やアジア諸国から信頼されるよう、一層の外交努力を払わなければなりません。この講演では、世界第2位の経済大国である日本が、なぜ国際政治の上のステータスでは中位でしかないのかということにポイントをおいて、日本のソフトパワーとの関連から考察します。

■講師紹介 福岡県職員を経て、1997年に日中合弁会社の社長に就任後、多くのビジネスを手がける。中国語及び中国問題のスペシャリスト、日中間の架け橋として、中国国家要人來福時や国際会議通訳を数多く担当すると共に、講演、執筆を通して、全国で活躍中。現在、(株)DLC日中ビジネスコンサルティング社長を始め、日中関係の要職を兼務。

2008年3月6日(木) 18:00~20:00

福岡ビル9階1ホール

9. 東南アジアへの人材開発協力 (英語・日本語)

講師:安永英資 (やすなが えいし) 氏



日本政策投資銀行と日本経済研究所は、東南アジア諸国の産業・金融セクターに対し、信用審査やプロジェクト評価能力の向上と、融資先経営者の能力と相互パートナーシップを尊重することの必要性について指導してきました。この講演では、東南アジアの産業・金融界の人づくりのため、どのように日本の経験、ノウハウを提供してきたのかを中心に紹介し、ソフトパワーの一つの可能性について考察します。

■講師紹介 1979年早稲田大学卒業後、日本開発銀行(現:日本政策投資銀行)入行。以降、ドイツ銀行に研修派遣、米国ワシントン駐在員事務所を経、福岡の九州支店にも6年間勤務。2001年よりアジアの開発調査に関するコンサルティングを手掛ける(財)日本経済研究所に出向し、2007年から同財団の常務理事に就任。

注: 英語・日本語で予定される講演において、講演会参加者が全て日本語を理解できる場合は、講演は日本語のみで行います。講演内容については、各講演者の個人的な意見・考察であり、福岡日米協会の見解を反映するものではありません。

-文化、価値観、外交-

アジアにおける日本のソフトパワー

21世紀初頭の10年において、日本は引き続き世界第2位の経済大国であり、ODA（政府開発援助）額は世界第3位、またアジアに於けるアメリカ合衆国の最も緊密な同盟国として存在しています。しかし、経済的には大国であっても、国際政治に於いては、日本は依然ミドルパワーの国であり、アジア太平洋地域内では二国間からグローバルな取り組みに至るまで、様々な場面でその影響力の拡大を図ってきました。米国とは安全保障強化を進めつつ、6カ国協議、東アジアサミット、アセアンプラス3などへの重点的な関わりや、メコン地域開発（ベトナム、カンボジア、タイ、ミャンマー、ラオス、中国雲南省）への技術支援拡大を進めています。また近年、日本は国際問題に対し積極的な「価値の外交」政策を進め、更には憲法改正も検討され始めました。しかし、近隣諸国とは歴史認識において深刻な相違点が残されています。

その一方で、映画やデザイン、ファッションといった日本文化は、単にアジアのみに限らず、世界的に広く受け入れられるようになりました。では、このような国内外のいろいろなダイナミズムが、アジアに対する日本のソフトパワーにどのような影響を与えるのでしょうか。

国のソフトパワーとは、提唱者の元米国防次官補ジョセフ・S・ナイ博士によれば、「望む結果を、強制や金銭によるのではなく魅力を通じて達成する能力であり、その国の文化、政治的な理念や政策に基づく魅力から生まれるもの」を指します。福岡日米協会では、今年度設立50周年を迎えるにあたり、記念連続講演会に様々な分野の識者を招き、それぞれの切り口からこの問いへの答えを探っていきたいと考えます。

プログラム・コーディネーター
ステファニー・A・ウエストン
福岡大学法学部教授、福岡日米協会理事

お申し込み：下記要領にてお申し込みください。開催日時については、中のページの各講演の欄に記載しています。

会場：福岡ビル9階ホール 福岡市中央区天神1-11-17

会費：福岡日米協会会員・学生は無料、一般は各回500円

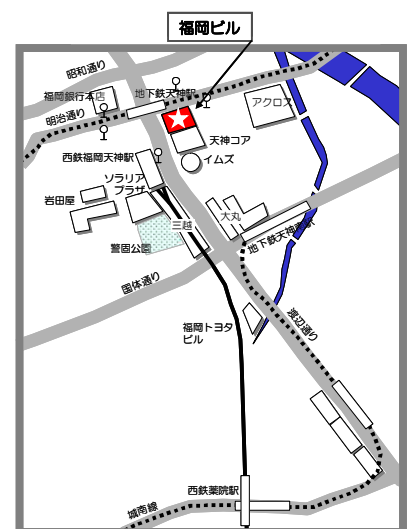
（当日、お釣りのないようご注意ください）

*法人会員は代理出席が可能です。

募集人員：各回先着40名様。（定員に達した以降のお申し込みの方にのみ、お断りのご連絡をいたします。）

申し込み：各開催日の3日前までに、①受講希望日 ②連絡先住所（郵便番号）
③氏名（ふりがな）④電話・ファックス番号 ⑤会員・学生・一般の別
を明記の上、ファックスか郵便、またはEメールにて下記へお申し込みください。お預かりした個人情報を、目的外に使用することはありません。

講演会会場案内図



福岡日米協会

〒810-8570 福岡市中央区天神 1-11-17（西鉄総務部内）

電話 092-734-1552 ファックス：092-722-1405

Eメール jasf@nnr.co.jp

